No.					市立甲府病院　機能仕様書
Lv1	Lv2	Lv3	Lv4	Lv5	要件項目
30	1				情報蓄積
30	1	1			電子カルテ蓄積機能
30	1	1	1		電子カルテシステムで登録した各情報が蓄積できること。
30	1	1	2		電子カルテに部門システムからの実施情報が反映されている場合、その情報も蓄積できること。
30	1	1	3		電子カルテシステムで登録した看護情報（計画・指示・実施情報等）が蓄積できること。
30	1	1	4		電子カルテシステムで登録した診療記事が蓄積できること。
30	1	1	5		電子カルテシステムで登録した文書情報が蓄積できること。
30	1	1	6		電子カルテシステムで登録した退院サマリ情報が蓄積できること。
30	1	1	7		電子カルテシステムに検査部門システムから伝達された検査結果情報が蓄積できること。
30	1	2			医事統計蓄積機能
30	1	2	1		医事統計情報（診療稼動額・収納データ等）を蓄積できること。
30	1	2	2		ＤＰＣ関連情報（請求履歴等）を蓄積できること。
30	1	3			ダイナミックテンプレートで入力されたデータのマート化機能
30	1	3	1		電子カルテにおいて、記載した内容によって項目が変化するテンプレート（以下、ダイナミックテンプレート）を使用して入力された診察記事および文書の情報を分析するために、利用目的別のデータ(以下、データマート)を定義・作成できること。
30	1	3	2		データマートの項目は、ダイナミックテンプレートのすべての項目について定義・作成できること。
30	1	3	3		データマートの名称は、ダイナミックテンプレート名から自動設定できること。
30	1	3	4		データマートの名称は、手動で任意に変更できること。
30	1	3	5		データマートの項目名称は、ダイナミックテンプレートの定義に従って自動で初期設定されること。
30	1	3	6		データマートの項目名称は、手動で任意に変更できること。
30	1	3	7		蓄積対象となっているデータマートに対し、データを蓄積できること。
30	1	3	8		蓄積する周期（毎日、一回だけ）を設定できること。
30	2				データ検索機能
30	2	1			検索機能全般
30	2	1	1		各端末に特別なソフトウェアをインストールすることなく、Ｗｅｂブラウザのみで情報の検索・データ利用ができること。
30	2	1	2		ＤＷＨに蓄積しているデータを複雑な操作をすることなく利用でき、情報収集に活用できること。
30	2	1	3		検索・抽出されたデータは、疾患別（病名別やDPC別）にも集計できること。
30	2	1	4		診療支援システムデータベース以外に蓄積しているデータに対しても本機能にて参照することができる設定を行うことができること。
30	2	1	5		ＤＷＨを必要に応じて利用することにより、院内各部門の業務統計の作成支援または、業務統計基礎データを提供することができること。
30	2	1	6		ＤＷＨのデータはＯＤＢＣ（データベースへの接続方式）等を経由し、直接参照が可能であること。
30	2	2			認証機能
30	2	2	1		利用者ＩＤとパスワードによる認証によりシステムを利用することができること。
30	2	2	2		他システムからのシングルサインオンによる認証（別システムにてログイン認証がされていれば本ＤＷＨシステムでの認証不要となる仕組み）によりシステムを利用することができること。
30	2	2	3		利用者ＩＤは電子カルテシステムの利用者マスタを利用すること。
30	2	2	4		ログインし直さずに電子カルテ画面から検索ツールが使用できること。
30	2	3			メニュー/テンプレート設定機能
30	2	3	1		ＤＷＨに蓄積しているデータに対して、抽出項目と抽出条件がセット化された検索条件（以下、検索テンプレート）を作成することができること。
30	2	3	2		検索テンプレートを作成し、検索が行えること。
30	2	3	3		検索テンプレートは階層構造メニュー形式で表示され、簡単に利用したい検索テンプレートを選択できること。なお、階層構造は、複数階層の定義が可能であること。
30	2	3	4		利用者ごとに検索条件を管理できること。
30	2	3	5		データベースを操作するための言語（以下、ＳＱＬ）を直接入力して検索テンプレートを作成できること。
30	2	3	6		他の検索条件を利用することで、新たな検索テンプレートの作成ができること。
30	2	3	7		検索テンプレートは「ユーザ」「診療科」「職種」の単位で公開範囲を設定できること。
30	2	3	8		作成した検索テンプレートは、ユーザ単位（指定した任意の利用者）に公開できること。
30	2	3	9		作成した検索テンプレートは、診療科単位（指定した任意の診療科に所属する利用者）に公開できること。
30	2	3	10		作成した検索テンプレートは、職種単位（指定した任意の職種に所属する利用者）に公開できること。
30	2	3	11		「ユーザ」「診療科」「職種」の公開範囲を設定する利用権限を、利用者別、職種別に付与できること。
30	2	3	12		検索テンプレートの表示順の並び替えができること。
30	2	3	13		検索テンプレートを保存する場合は、任意に名前が付与できるること。
30	2	4			検索指示/表示機能
30	2	4	1		検索条件の値は等しい、等しくない 、未満 、より大きい、以下、以上 、含む、含まない、前方一致、後方一致、範囲、値あり、値なしから指定できること。
30	2	4	2		ＡＮＤ、ＯＲなどを組み合わせて詳細の検索条件定義ができること。
30	2	4	3		検索条件のＡＮＤ、ＯＲ指定は、優先順位の指定ができること。 （例えば、（Ａ　ｏｒ　Ｂ）　ａｎｄ　（（Ｃ　ｏｒ　Ｄ）　ａｎｄ　Ｅ）　など）
30	2	4	4		検索条件の値は範囲指定できること。
30	2	4	5		検索条件の値として、マスタ項目が存在する場合は、マスタから値を選択できること。
30	2	4	6		検索テンプレートの説明文を表示できること。
30	2	4	7		検索指示を行う際に、検索条件項目の属性・意味等がユーザーにわかりやすく示されること。
30	2	4	8		検索項目として必須入力項目の設定ができること。
30	2	4	9		ＩＳ ＮＵＬＬ（空白）、ＩＳ ＮＯＴ ＮＵＬＬ（空白でない）での検索が可能なこと。
30	2	4	10		検索条件は複数指定できること。
30	2	4	11		日付項目に対しては日付直接入力、カレンダーによる入力以外に以下の指定ができること。 「今日」「昨日」「明日」「今週」「先週」「来週」「今月」「先月」「来月」
30	2	4	12		日付項目に対しては期間による条件指定ができること。
30	2	4	13		検索指示を行う前に、発行されるＳＱＬの参照及び、検証ができること。
30	2	4	14		検索実行前に、検索結果表示項目の選択ができること。
30	2	4	15		検索指示を行う際に結果表示項目ごとに、並べ替え指定ができること。
30	2	4	16		検索結果として表示された患者データを元にして、更に絞込み検索ができること。
30	2	4	17		相対日付による検索ができること。 （例えば、手術日前１週間以内に実施した注射情報を検索させる。）
30	2	4	18		検索結果の表示形式として、一覧形式の指定ができること。
30	2	4	19		検索結果の表示形式として、二つの項目に着目してデータを集計する形式（以下、クロス集計）の指定ができること。

30	2	4	20		検索結果の表示形式として、グラフ表示形式の指定ができること。
30	2	4	21		検索結果を一覧形式で表示する際は、結果表示項目単位に集計（合計、最大、最小、平均、件数）結果を表示できること。
30	2	4	22		クロス集計指示時は、集計対象となる値の指定（合計、最大、最小、平均、件数）を行うことができること。
30	2	4	23		クロス集計及び、一覧形式による集計結果を表示した際は、集計値の要素データを別画面で参照できること。
30	2	4	24		グラフ描画する項目とグラフタイプの指定を行い、グラフ作成が行えること。
30	2	4	25		以下のグラフ作成ができること。 棒グラフ、折れ線グラフ、レーダチャート等
30	2	4	26		検索結果に一覧表示された任意の明細情報の項目を引数として、電子カルテシステム等を起動できること。
30	2	4	27		起動する他システムは複数システム起動する設定ができること。
30	2	4	28		検索テンプレートに設定されている他システム起動のための引数情報を表示できること。
30	2	4	29		ベン図を用いた患者集合検索ができること。
30	2	4	30		患者集合検索は、クリックによりベン図上の範囲を選択でき、視覚的に対象となる集合の絞込みができること。
30	2	4	31		検索結果として表示させる最大件数及び１ページあたりの件数の設定ができること。
30	2	4	32		検索結果一覧に表示された情報は、再検索を行うことなく、任意の項目でフィルタリングができること。
30	2	4	33		検索結果一覧画面から、任意の項目による並べ替えができること。
30	2	5			外部出力機能
30	2	5	1		外部出力する際は、「即時」若しくは、「バッチ（即時性を求めず、検索指示後に外部出力したデータを確認する際に用いる操作手法）」指示ができること。
30	2	5	2		外部出力指示の際、必要な項目のみの選択ができること。
30	2	5	3		外部出力にて「バッチ」指示により作成された情報は、利用者が指示した処理結果を一覧で確認できること。 なお、特別な権限を付与した利用者に対しては、全利用者の処理結果が一覧で確認できること。
30	2	5	4		利用者が簡単な操作により、必要なデータを検索し、端末側に外部出力ができること。
30	2	5	5		検索テンプレートごとに外部出力可否設定ができること。
30	2	5	6		検索結果は、ＣＳＶ形式、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌ形式、ＸＭＬ形式のファイルで保存できること。
30	2	5	7		検索結果のＣＳＶ形式、Ｍｉｃｒｏｓｏｆｔ　Ｅｘｃｅｌ形式、ＸＭＬ形式には任意で名前を付与できること。
30	2	6			再利用／情報譲渡機能
30	2	6	1		検索条件を利用者ごとに保存し、再利用ができること。
30	2	6	2		利用者ごとに保存された検索条件は、全ての利用者が利用できる共通の検索条件として扱うことができること。
30	2	6	3		利用者が作成した検索テンプレートは、他の利用者が利用できること。
30	2	6	4		検索結果データは外部出力等により他のユーザーでも閲覧が可能なこと。
30	2	7			利用権限付与機能
30	2	7	1		検索ツールの利用権限を職種別、ユーザ別に付与できること。
30	2	7	2		職種或いは利用者ごとに各種マスタ昨日操作権限の設定ができること。
30	2	8			セキュリティ機能
30	2	8	1		検索ツールでログイン、検索指示、検索結果を外部出力したとき、アクセスログとしてサーバ登録日付、アクセス日時、操作者ＩＤ、アクセス端末名、ＩＰアドレス、アクセス対象（検索ＳＱＬ文など）が記録できること。
30	2	8	2		アクセス期間でアクセスログの絞込みができること。
30	2	8	3		端末ごとにデータ検索機能利用制御ができること。
30	2	8	4		端末・利用者・職種のいずれかごとに検索結果の外部出力可否制御ができること。
30	2	8	5		検索結果項目に対して、秘匿化の指定を予め設定することができること。 なお、秘匿化指定された項目でも利用者へのシステム権限設定により、秘匿化解除された状態で参照できること。